

秋の視察研修会

滋賀県立琵琶湖博物館・湖東三山金剛輪寺

事業委員会主催による視察研修会が11月26日（火）実施された。会員及び一般参加者119名は、近鉄奈良駅前から2台、近鉄八木駅前から1台の観光バスに分乗、滋賀方面へ出発。最初の見学場所である琵琶湖博物館で合流した。

【滋賀県立琵琶湖博物館】

「湖と人間」をテーマに、琵琶湖の生き物について楽しみながら学べる「体験型」博物館。国内最大級の淡水生物の水族展示では、琵琶湖の生き物と人の暮らしとの関わりについて紹介している。また、マイクロアクアリウムでは、琵琶湖の生態系を支えている小さな生き物などミクロの世界を案内している。

また、隣接する「草津市立水生植物公園みずの森」は、びわ湖のほとりで、水と花の癒しの庭園。水辺に咲く四季の花々を楽しめ、ハスやスイレンなどの水生植物のテーマ施設がある。

参加者は、琵琶湖の歴史や地層、生き物が網羅されていて、大きな水槽には琵琶湖大ナマズやゆっくり泳いでいるカワムツなど、琵琶湖に生息する生き物を見て、淡水湖の魅力を感じ知識を深めることができた。

また、みずの森のアトリウム（温室）では、「ロータス」の名で総称されるハスやスイレンなど熱帯スイレンを中心とした国内外の水生植物を間近で観察することができた。

【天台宗・金剛輪寺】

鮎屋の郷での昼食後、湖東三山の一つ天台宗・金剛輪寺へ。

奈良時代の中頃、天平13年(741)

に聖武天皇の勅願で行基菩薩によって開山。近江守護職・佐々木頼綱によって建立された本堂は、鎌倉時代の代表的な和様建造物として国宝に指定。堂内に安置されている御本尊をはじめ、仏像の多くが国の重要文化財。また、本坊明壽院の庭園は近江路随一ともいわれ、国の名勝に指定されている。そして、秋の紅葉は「血染めのもみじ」として全国に知られている。



草津市立水生植物公園みずの森



琵琶湖博物館



金剛輪寺